



**「笑って食べてクリスマス会」** 看護師長 川染 知代



12月16日、大島青松園のクリスマス会が大島会館で開催されました。回を重ね、今年は5回目となりました。会場は、大きなツリーやイルミネーションが美しく、幻想的な雰囲気につつまれました。



47名の入所者さんたちの参加があり約2時間の時間を一緒に過ごすことができました。新盛園長、森自治会長さんのあいさつの後、野村副自治会長さんの乾杯の音頭で会が始まりました。お料理は栄養の方の手作りで鯛の姿作りやフルーツの盛り合わせ、手作りケーキ等が美味しそうでした。ステーキもお肉がやわらかく美味しかったようです。

催し物では、庵治第2小学校の生徒さんと香川大学教育学部の学生さんのミニコンサートがあり、楽しそうに音を奏で、みなさんうっとりして聞き惚れていました。ボランティアグループのこえび隊の「マッチ売りの少女」は可愛く、看護師長たちの「フラダンス」は優雅で、看護師の「ベリーダンス」では目が釘付けになりました。医局の「きよしこの夜」ではみんなで合唱しました。第2不自由者棟の踊りは「花笠音頭」に合わせて仮装パーティーのようで面白く、みんなでおなかをかかえて笑いました。治療棟はかっぱの恰好をした職員が「しばてん音頭」を踊りました。かっぱの動きがコミカルで本当の河童?のようでした。第1不自由者と病棟は入所者と職員が一緒になって「上を向いて歩こう」「お正月」を歌いました。大きな声が出ていて日頃の練習の成果が出ていました。



最後に入所者一人ひとりにクリスマスプレゼントが手渡されました。入所者さんからは、「久しぶりに入所者が集まれて話がはずんだ。会う機会が少なくなっているのでみんなに会えてよかった。」という声が聞かれました。また、来年もみんなでクリスマス会を楽しみたいものです。

最後に入所者一人ひとりにクリスマスプレゼントが手渡されました。入所者さんからは、「久しぶりに入所者が集まれて話がはずんだ。会う機会が少なくなっているのでみんなに会えてよかった。」という声が聞かれました。また、来年もみんなでクリスマス会を楽しみたいものです。



**第27回 ハンセン病 コ・メディカル学術集会で発表しました**

第1不自由者棟看護師長 藤川美穂

平成27年11月27・28日に熊本・菊池恵楓園に於いて第27回ハンセン病コ・メディカル学術集会在開催されました。九州新幹線に乗り熊本駅に降りると至る所でまもんが出迎えてくれ、宿泊先からも立派な熊本城を見ることができました。会場の菊池恵楓園はとても広く、緑が多く穏やかな時間が流れているのを感じました。



学会は、入所者の生活をよりよいものにするための取り組みやエンド・オブ・ライフや看取りについてなど各施設からの発表があり活発な意見交換が行われました。私は「**買い物支援システムの構築—入所者の高齢化に伴う生活支援の取り組み—**」という演題名で発表し、他の施設からも関心を持った質問がありました。全国のハンセン病施設のさまざまな職種が一堂に会して有意義な時間が共有できた2日間でした。

当園看護課の他の発表

第1不自由者棟：西本 絵梨	ハンセン病後遺症のある高齢者が安全、安楽に過ごすための空調管理—エアコンによる空調管理を実施して—
第3不自由者棟：穴吹 俊典	入所者の思いを取り入れた安全対策構築への取り組み (入所者参加型安全ラウンドを施行して)

## 大島青松園・ハンセン病啓発活動の紹介

大島青松園の様々な活動の中でハンセン病の啓発活動は、大きな役割の一つです。多くの方が見学に来園され、TV・ラジオ、新聞などマスメディアからの取材、ハンセン病フォーラムや各学会などの発表も数多く行っています。また、最近では当園の入所者さんに看護師がインタビューをしたライフレビューがまとめられ、本として発行されました。ハンセン病のこと、そして大島青松園のことを様々な視点で多くの方に知ってもらえるように、伝えられるとよいですね。今回は、その一部をご紹介します。

### TV取材(制作:テレビマンユニオン)

世界のハンセン病の現状や日本におけるハンセン病の歴史や問題を取り上げるために、俳優の井浦 新さんが大島青松園の入所者の方にインタビューをされました。インタビューを受けられた入所者さんは、「やさしい口調で話しやすいかった。TVで流れたのは、ほんのちょっとだったな〜。」とされていました。限られた放送時間の中では、入所者さんのお話がすべて聞けなかったのは残念でしたが、井浦さんのナレーションの中に入所者さんの思いは伝わっているように感じました。

### 雑誌の取材(ドイツ自然科学雑誌:GEO)

このGEOという雑誌は、約50万部を発行しているドイツの代表的な自然科学雑誌だそうです。生物や自然の写真が多く掲載された雑誌ですが、当園で活動されているボランティアグループのこえび隊を取材されたことがあり、今回大島青松園の取材となりました。

### 本の発行(風間書房:岡山大学大学院保健学研究科 近藤真紀子監修 大島青松園編)

「大島青松園で生きたハンセン病回復者の人生の語りー深くふかく目を瞑るなり、本当に吾らが見るべきものを見るためー」が12月に発行されました。17名の入所者さんの人生の語り、ハンセン病の歴史、大島青松園の現状や将来構想などが掲載されています。大島青松園のホームページでも本の紹介をしています。そちらもご覧ください。



TV取材



ドイツ人記者の取材



## 申年を迎えて

第1不自由者棟副看護師長 三木 えりか

今年の干支は「申」です。2016年を迎える私にとって、生まれて4度目の申年になります。申にちなんだことわざとしては「猿も木から落ちる」というのがありますが、「長年その道を極め続けた者であっても失敗することはある」という意味です。この大島で24年間勤務を続けて何度かの失敗もしてきましたが、ここまでこられたのは入所者さんや職員のみなさん、家族のおかげだと思っています。これからも体調管理に努め1日1日を大切にしたいと思います。



### 編集後記:

大島で迎えた初めての冬です。当初は暖冬かと思いましたが、徐々に寒さが辛くなりました(笑)。暖かな春が待ち遠しい毎日です。原稿依頼の際にはご協力ください。また、ホットなニュースがありましたら、担当者にご連絡ください。

### 国立療養所大島青松園

〒761-0198 香川県高松市庵治町6034-1

TEL 087-871-3131 FAX 087-871-4821

URL <http://7301s001.cosimaseinhds.go.jp/>

発行者 看護課ホームページワーキンググループ